

---

# 仮面ライダーディケイド2nd

エンペラーディケイド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド2nd

### 【コード】

N8940H

### 【作者名】

エンペラーディケイド

### 【あらすじ】

世界を旅していたディケイドその旅は終わったかのように見えたがまだ終わっていなかった新たな士たちの旅が始まる

## 序章

ディケイド

世界を破壊する者

ディケイド

門矢士

クウガ

小野寺ユウスケ

光夏海

キバーラ

光栄次郎

は世界をめくり旅をしていた。

彼らの世界をめぐる旅は終わったかのように見えたが…

今新たな旅が始まろうとしていた

## 第1話 新ライダー（前書き）

デイケイド書いて見ました。

今回は前回の反省を生かして

書いていこうと思います

まだまだ未熟ですが 更新できるようがんばりますので  
よろしくです

## 第1話 新ライダー

ここは光写真館

士たちが集まり旅の終わりを記念し乾杯しようとしていた

その時

新たなる絵がかかった

それは

男たちが女達に花束を渡してる絵だった 士…

「なに！世界の旅は終わったはずじゃ、なんでまたこんなのが出てくるんだ」

デイケイドこと門矢士は叫んだ

夏海…

「また、旅に出るってことでしょうか…」

ユウスケ…

「士、とりあえず外出てみようぜ」

クウガこと小野寺ユウスケが言った

士…

「そうだな」

三人は外にでた

一見夏海の世界と変わらない風景だった 夏海…

「なにも変わってませんよ、まさかネガの世界？」

士

「まさか。」

士と夏海は表情が暗くなった

すると夏海の前に一人の男が現れた

その男は帽子をかぶり茶色一色だった

男…

「あなたは美しい。私はあなたのような人と会えて光栄ですあなたを例えるならえ…と…」

男は夏海の手をとりながら考えこんだ

夏海…

「離してください。あなたなんなんですか？」

夏海は手を離れた

男…

「申し遅れました私は風間大介」

男は風間大介と名乗った

士…

「こいつのどこが美しいんだか。お前大丈夫か？」

大介に向かって言った

夏海…

「どういう意味ですか？士君！」

夏海は士の首を親指でさした

士…

「はっはっはやめる夏みかんはっはっは」

夏海の笑いのつぼが炸裂した

大介…

「怖い」

呟いた

すると眼鏡の男が歩いてきた。

「君かわいいね。僕の名前はウラタロス…僕につられてみる？」  
ウラタロスの名乗る男は言った

夏海の手を握った

夏海…

「離してください。笑いのつぼ！」

夏海は笑いのつぼをやったが

ウラタロスにかわされ

ユウスケに当たった

ユウスケ…

「はっはっは夏海ちゃん勘弁してよはっはっは」

夏海…

「ごめんなさい。ユウスケ」

夏海はユウスケに謝った

士…

「なんだこの世界はナンパの世界か」

周りは男が女にナンパしている者ばかりだった

「そのとおりだ士！」

また男が一人歩いてきた

士…

「またか、夏みかんはたいした奴じゃないぞお前だれだ？」

士が聞く

「俺はユウキお前と一緒に世界を旅する者だ」

ユウキと名乗る男は言った

士…

「なに！世界を？」

士は聞いた

ユウキ…

「ああ、お前と一緒に通りすがりの仮面ライダーってとこだ」

夏海…

「え？」

ユウスケ…

「マジかよ」

二人は驚いた

ユウキ…

「さあて、二人共俺の女に手を出すなよ。」

ユウキは言っつて夏海の手を握った。

夏海…

「離してください」

夏海は手を離れた

士…

「こいつも変わんないじゃないか」

士は思った。



ユウキ…

「見せてやるよ。俺の変身…」

ユウキは言った

夏海…

「変身？」

ユウキ…

「そうだ、かっこよすぎるからって見とれるなよ」

そう言うつと。

大介…

「なに、あなたもライダー？なら仕方ない」

大介は棒を取り出した

大介…

「変身」

そう言うつと

トンボのようなロボットが飛んできて  
棒の上に乗る

大介は仮面ライダードレイクになった  
ウラタロス…

「なるほど、愛の決着は戦いで決めるのね」  
そう言うつと

ウラタロスはベルトを巻き

「変身」

言って、パステースをベルトにタッチさせ

「Rodform」

音がなり仮面ライダー電王ロッドフォームへと変身した

「お前僕につられてみる？」

電王は言った

ユウキ…

「さあて行くか」

するとユウキはディケイドドライバーに似た黒いベルトを取り出し  
巻いた

カードを一枚取り出した

「変身」

「Dark kamen Ride

Decade」

と音がなり

ディケイドの黒い  
姿

ダークディケイドへと変身した…

第1話 新ライダー（後書き）

士…

「だれだよユウキて」

ユウスケ…

「オリジナルらしいよ作者が勝手に作った」

士…

「まあ、一番強いのは俺だから気にしないな」

ユウスケ…

「どんだけ自信あんだよ」

### 第3話：闇のデイケイド（前書き）

なんと自分で勝手に設定を作ったダークデイケイドが大暴れ笑  
オリジナルカードも出てるので  
見てください

### 第3話…闇のディケイド

ユウキと名乗る男は

仮面ライダーダークディケイドに変身した

その姿はディケイドそっくりで色は基本黒      ラインが黄色に  
目  
が青だった

士…

「ダークディケイド？」

ダークディケイド… 「みてるよ士…これが俺の力だ」  
そう言うと

ダークディケイドは 電王      ドレイクの方に向かった

電王…

「お前、僕に釣られてみる？」

ドレイク…

「行きますよ」

ドレイクと電王はダークディケイドに向かっていった

電王はロッドを振りかざした

しかし、ダークディケイドは交わして  
蹴りを食らわせた

ドレイク…

「1Jの…」

ドレイクは銃を撃った

すると

「ATTACK RIDE GADE」

ダークデイケイドはカードを一枚ベルトにさし  
音声があった

すると、

ドレイクの銃弾が当たった

しかし、

ダークデイケイドはびくともしない

ダークデイケイド… 「今度はこっちの番だ」

カードをベルトにさし

「ATTACK、RIDE、BLUST」

すると

デイケイドとそっくりな武器を取り出し

銃モードにして

銃弾を撃ちまくった

デイケイドのより威力があった

電王、ドレイク…

「ぐはっ」

二人は人間に戻った

「くそっ」

二人のライダーは言い 逃げて行った

ダークデイケイドは変身解除した

ユウスケ…

「なんなんだ今の、デイケイドそっくりだった」

士…

「何者だ？」

夏海…

「なんなんですか？」

ユウキ…

「俺はただの最強ライダーだ…覚えてな？」

士…

「なに！最強だと。言っじゃねえか」

士は切れぎみだった

ユウキ…

「俺はお前より強いしな」

ユウキは少しバカにしたように言った

士…

「いいだろう、そんなに言っなら俺と勝負だ」

士はカードを取り出そうとした

夏海…

「笑いのつば！」

士…

「はっはっはっはやめる夏みかんはっはっは」  
士は笑いこけた

夏海…

「ライダー同士闘っちゃいけません。またあの悲劇が繰り返えられますよ」

ユウスケ…

「そっだよ士…」

二人は士を責めた

士…

「ちっ仕方ない」

士はカードを締まった

ユウキ…

「なんだやんないのかまあいいや」

ユウキは残念そうに言った

ユウスケ…

「いったいだークデイケイドてなんなんだ？」

ユウスケはたずねた

ユウキ…



「ダークデイケイド…それはまあなんて言うかな、ネガ世界のデイケイドみたいな感じかな」

ユウスケ、夏海…

「ネガ世界！」

二人は叫んだ

そう、あのダークライダーたちが支配していた世界　ネガの世界のライダーだと言うのだ

士…

「どういうことだ？」

士はたずねた

ユウキ…

「いやあ、でも俺ネガ世界出身じゃないんだよね、じつはダークデイケイドライダーはネガで拾ったんだ」

夏海…

「拾った？」

ユウキ…

「ああそうだ奴らから盗んだって言った方がいいかな」

ユウキはすこしニヤケて言った

士…

「どこかのコソドロみたいだな」

士が呟くと

「士！なんか言ったかい？」

声がした

士…

「海東！」

海東…

「やあ。士。小野寺君、夏メロン」

夏海…

「夏ミカ…夏海です！」

危うく夏みかんと言いそうになった夏海

ユウキ…

「いやあ海東久しぶり」

ユウキは手をあげて言った

海東…

「君か、確かダークディケイド手に入れたんだよね？」

士…

「海東。こいつを知ってるのか？」

士はたずねた

海東…

「まあね」

海東は適当に言った

ユウキ…

「さあてそろそろ行くかな」

ユウキは立ち上がった

士…

「どこに？」

ユウキ…

「そろそろネガからの追っ手が来る頃だと思ってね」

ユウキはダークデイケイドライバーを手に言った

夏海…

「狙われてるんですか？それを盗んだから」

夏海が心配そうに言った

ユウキ…

「心配ないよ…俺不死身だし、また来るよ。俺のマイハニーナツミン！」

ユウキは言って立ち去った

士…

「おいコラー！待て！」

夏海…

「誰がマイハニーですか！それとナツミンじゃありません」

士と夏海が叫んだ

ユウスケ…

「なんか夏海ちゃんいろんなアダ名が…」

ユウスケが呟くと

夏海がすごい目で睨んできた

ユウスケ…

「ごめんなさい…」

海東…

「さあて、お宝探しに行くかなじゃあな土。」

そう言つと海東も去つて行つた

土…

「ダークデイケイド…か」

ユウスケ…

「確かに変なやつだったけど悪いやつじゃないと思う」

夏海…

「確かに」

3人が言つた

土…

「まあしょうがないやつを追つか」

ユウスケ…

「そつだな」

夏海…

「そうですね」

3人はユウキの向かった方へ歩いていった

ユウキ…

「きたか」

「さあ、いい子だから返すんだ。この天才紅音也様からにげられる  
と思うなよ」

男が言った

ユウキ…

「面白い。なら俺は超天才だ、行くぞ」

Dark Kamenraide

Decade

ユウキはダークデイケイドに変身した

音也…

「行くか」

紅音也と名乗る男はコウモリを呼び寄せ 手に噛みつかせた

「ガブリ」

コウモリが言った

音也…

「変身」

そう言って、ベルトにコウモリをつけた

紅音也はダークキバに変身した…

### 第3話…闇のディケイド（後書き）

士…

「ダークディケイドただのナンパ野郎じゃないか」

ユウキ…

「だれが。まあ実力はあるけどね」

士…

「なんだと？」

ユウキ…

「じゃ勝負だ」

ユウスケ…

「やめるライダー同士戦うなんて」

士…

「ユウスケ…男にはやらなければならない時がある」

ユウキ…

「よく言った、ならば何人口説けるか勝負だ」

士…

「だいたいわかったいくぞ」

ユウスケ…

「なんだ。勝手にしてくれ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8940h/>

---

仮面ライダーディケイド2nd

2010年10月10日20時51分発行